実測は佐久間豊氏による。

Ⅲ　群　④西大畑遺跡、Cf 53 住………注②に同じ

〃　　⑤面塚遺跡、SⅠ52 住…………現地説明会資料　水沢市教育委員会　昭和55年6月

Ⅳ　群　⑥膳性遺跡、G－15住居跡 ⎫ 膳性については(財)岩手県埋蔵文化財センター高橋与右衛門氏

Ⅴ　群　⑦　〃　　E－06　〃 ⎭ から種々の教示・実測図の提供をうけた。深謝する。

Ⅵ　群　⑧今泉遺跡、Bg 62 住他………注②に同じ

Ⅶa 群　⑨石田遺跡、Ci 30 住居跡……同第61集　同Ⅻ、　同　同

〃　　⑩水沢市玉貫遺跡の古代の資料のすべて……(財)岩手県埋蔵文化財センター資料実現による。
山口了紀・吉田洋氏の教示をうけた。

Ⅶb 群　⑪石田遺跡、Dd 03 住居跡……注⑨に同じ

Ⅷ　群　⑪　〃　　Da 56　〃　……同上

〃　　⑫林前遺跡、SF 22 住他………林前遺跡　岩手県水沢市文化財調査報告書第3集　水沢市教育委員会　昭和54年3月

Ⅸ　群　相去遺跡Ⅰ期 ⎫ 相去遺跡については、岩手県立博物館高橋信雄氏より種々教示と実測図の

Ⅹ　群　〃　Ⅱ期 ⎭ 提供をうけた。なお、氏とは相去のみならず各群の全般にわたり意見交換を行ない益する所大であった。深謝する。なお、以下の論文がある。

⑬高橋信雄、岩手県のロクロ使用土師器について……考古風土記第2号　昭和52年4月
なお、⑬に対する批判的見解として

⑭本堂寿一、極楽寺伝座主坊跡緊急発掘調査報告書一付、寺院跡出土土器の再整理とその考察
北上市立博物館研究報告第3号　昭和55年8月　があるが、ここでは前者にしたがっておく。
今後の検討課題とする。

Ⅺ群以下については、金ケ崎町西根・鳥ノ海の個別報告中に詳細に述べられている。

⑮西根遺跡 ⎫ 岩手県文化財調査報告書第59集、東北縦貫自動車道関係埋蔵文

⑯鳥ノ海A・B・C遺跡 ⎭ 化財発掘調査報告書Ⅹ　岩手県教育委員会、日本道路公団
昭和56年3月

参考資料2

岩手県南部を中心とした古代の住居跡の変遷（第1図）

表記について概述する。時期区分については既述の編年表にしたがう。

第Ⅰ～Ⅳ群期　古墳時代に相当するものであるが、Ⅰ・Ⅱ群期にはカマドが付設されない。四隅の角張った均正な正方形プランと、対角線上にのり、やや中央による4本の主柱穴を持つ。貯蔵穴様のものは既にある。規模に異同のあるものが組みあわせになる。Ⅲ群期にはカマドが付設されはじめるが、その状況にはばらつきがあり、斉一性はない。長大な煙道は未確認である。第Ⅳ群期にはカマド本体・長い煙道部をともに備えたものが出現し始める。

以上の時期の竪穴軸方位は変化に富み、一定の傾向性は示さない。なおⅢ群期の西大畑例には主柱穴以外に西辺中央の壁直下に柱穴様の2ケのピットもある。

第Ⅴ・Ⅵ群期　四隅に軽い丸味をもつほぼ正方形なプランと、先と同様に対角線上にのるが如くに配置された4本（稀な大規模例では6本以上）の主柱穴、北壁に付設されたカマドなどを有する構造をもつ。斉一性はかなり強く、構築法の確立を示すかのようである。ただし長大

な煙道の有無にはばらつきがある。明白なそれをもたない若干例も混在する事実がある。カマド焚口部には礫を門状に配置する。それより古期と思われる例では、カマド本体部内外両面にも礫を用いるものがあり、さらにカマドの対辺（多くは南壁）中央壁直下にも柱穴様のものをもつ例がある。建物主軸方位は〝磁北にほぼ一致→やや西に偏す〟という変遷をたどるらしい。1辺8ｍ～6ｍ程度の大規模なものと、5ｍ以下の中小規模なものがセットになる。

Ⅶ群期　プラン、主柱穴配置などは前代に共通するが、建物主軸方向はさらに西に偏し、かつカマド袖部への土師器類（長胴甕型を主とするが、各種の器種がある）の芯としての埋置が見られはじめる。主柱穴は4本を中心とするが、6本のものもあり、さらにその存在が不明確なものも増加する。前代に比し不均整なプランをもつものが増加する。

Ⅷ群期以降　集落跡と思われる遺跡の例のみをとる。変化の度合がきわめて大きい。

⑴　柱穴配置　主柱は4本と思われるが、そのすべて、あるいは2本が壁直下に寄るものも増加する。さらに柱穴配置の判然としない例がさらに増加する。

⑵　側壁　板材を用い〝腰板乃至壁風〟のものをつくり出す例も増加する。その四隅には支柱様のものが伴なう。

⑶　カマド構築部位　北壁も継続するが、東壁、南壁などへ変化する例が圧倒的に多くなりかつ壁中央ではなく若干いずれかに偏した位置となる。江釣子村猫谷地においては南壁→東壁という変遷を示す。

カマド構築法は、本体にも板状礫を用いるもの、煙道部に甕を横転位に据えるものなども加わる。所謂くり抜き式のものが多い。

⑷　（竪穴住居跡以外に）掘立柱建物・井戸・大溝も集落の構成要素に加わる例もあらわれる。

Ⅹ～Ⅺ群期　長方形プランで、側壁直下に多々の柱穴をもつ例が増加する。カマドなど特別な施設はほとんど見られない。これらの中には中世に入るものも含まれる可能性がある。

第Ⅷ群期以降については、遺跡の性格別の遺構の把握（構造・組みあわせ）が必要である。それは掘立柱建物についても同様である。　（文責　相原康二）

注①　高山遺跡、TK02住………高山遺跡　岩手県水沢市文化財報告書第1集　高山遺跡調査委員会、水沢市教育委員会　昭和53年3月

②　猫谷地遺跡、CH74住……猫谷地遺跡、CH74住居跡　岩手県教育委員会調査

③　面塚遺跡、SI02住………面塚遺跡　現地説明会資料　水沢市教育委員会　昭和55年6月

④　西大畑遺跡、CP53住……西大畑遺跡　岩手県文化財調査報告書第60集　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅺ　岩手県教育委員会、日本道路公団　昭和56年3月

⑤	膳性遺跡、G－15住	膳性遺跡　現地説明会資料　(財)岩手県埋蔵文化財センター 昭和54・55年 なお、膳性遺跡については、高橋与右衛門氏より各種教示をうけた。 深謝する。
⑥	〃　J－7住	
⑫	〃　F－11住	
⑬	〃　C－2－2住	
㉒	〃　G－8－1住	
㉓	〃　H－2住	
⑭	玉貫遺跡、I－12－1住	玉貫遺跡　現地説明会資料　(財)岩手県埋蔵文化財センター 昭和54年
㉘	〃　C－11住	
⑦	今泉遺跡、Bg62住	今泉遺跡、岩手県文化財調査報告書第60集、東北縦貫自動車道関係埋 蔵文化財発掘調査報告書XI 岩手県教育委員会・日本道路公団　昭和56年3月
⑧	〃　Bd59住	
⑨	〃　Bd03住	
⑩	〃　Bi24住	
⑪	〃　Cb24住	
⑮	石田遺跡、Df59住	石田遺跡　岩手県文化財調査報告書第61集　東北縦貫自動車道関係埋 蔵文化財発掘調査報告書XII　岩手県教育委員会、日本道路公団 昭和56年3月
⑯	〃　Dd03住	
⑰	〃　Df09住	
⑲	〃　Cb21住	
⑳	〃　Cf56住	
㉑	〃　Da56住	
⑱	尻引遺跡、第6号住………	尻引遺跡　尻引遺跡調査報告書、文化財調査報告書第17集 北上市教育委員会　昭和52年3月
㉔	上平沢新田遺跡、Ah15…	上平沢新田遺跡　岩手県文化財調査報告書第52集、東北従貫自動車道 関係埋蔵文化財発掘調査報告書III 岩手県教育委員会、日本道路公団　昭和55年3月
㉕	鳥ノ海A遺跡、第2号(Aj56)	鳥ノ海A遺跡　同上
㉖	〃　第3号(Ag53)	
㉗	〃　第4号(Af03)	